

令和4年度病虫害発生予察予報第11号（令和5年2月）

令和5年2月3日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 つる枯病 黄化えそ病 退緑黄化病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中央、西)</u> 、平年並(中西) <u>やや多(中央)</u> 、平年並(中西、西) <u>多(中央、西)</u> 、平年並(中西) <u>多(中西、西部)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> <u>多(中央)</u> 、少(中西、西) <u>多(中西)</u> 、平年並(西)、やや少(中央) <u>多(西)</u> 、 <u>やや多(中央、中西)</u>
促成ナス	灰色かび病 うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(東)</u> 、少(中央、西) 平年並(中央)、少(東、西) <u>多(西)</u> 、やや少(東、中央) やや少(県下全域) やや少(中央)、少(東、西) <u>やや多(中央、西)</u> 、少(東部)
促成ピーマン・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	平年並(中央、中西)、やや少(東) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(東)</u> 、平年並(中央) <u>多(東)</u> 、平年並(中央、中西) <u>多(中央)</u> 、平年並(中西)、少(東) <u>多(中西)</u> 、平年並(東、中央)
促成トマト	すすかび病 うどんこ病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>やや多(中央)</u>

※（ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く) 町村および吾川郡仁淀川町
県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報（高松地方気象台 1 月 26 日発表）

（1 月 28 日から 2 月 27 日までの天候見通し）

＜予想される向こう 1 か月の天候＞

気温は、ほぼ平年並ですが、1 週目は、寒気の影響を受ける時期があるため平年並か低いでしょう。

向こう 1 ヶ月の平均気温は、低い確率 40% です。

週別の気温は、1 週目は、平年並の確率 40% です。2 週目は、平年並の確率 50% です。3 ～ 4 週目は、平年並の確率 40% です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	40	30	30
		降水量	40	40	20
		日照時間	20	40	40

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1 週目	四国地方	40	40	20
2 週目		30	50	20
3 ～ 4 週目		30	40	30

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：1 月 28 日（土）～ 2 月 27 日（日）

1 週目：1 月 28 日（土）～ 2 月 3 日（金）

2 週目：2 月 4 日（土）～ 2 月 10 日（金）

3 ～ 4 週目：2 月 11 日（土）～ 2 月 24 日（金）

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生量：多(中央部、西部)、平年並(中西部)

根 拠

(1) 1 月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部と西部で平年よりも多く、中西部で平年並であった。発病程度は中央部、西部で平年よりも高く、中西部では平年並であった。

(2) 2 月の降水量は平年並か少ないと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の発病状況が継続すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：やや多(中央部)、平年並(中西部、西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりもやや多く、その他の地域では平年並であった。発病程度は県中央部、西部で平年よりもやや高く、中西部では平年並であった。
- (2) 2月の気温は平年より低く、降水量は平年並か少ないと予想されているため、現在の発病状況が継続すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) つる枯病

予 想 発生量：多(中央部、西部)、平年並(中西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部と西部では平年よりも多く、中西部では平年並であった。発病程度は、県西部で平年よりも高く、中央部でやや高く、中西部で平年並であった。
- (2) 2月の降水量は平年並か少ないと予想されているため、現在の発病状況が継続すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病部は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) 黄化えそ病

予 想 発生量：多(中西部、西部)、やや多(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりも多く、中西部でやや多く、中央部で平年並であった。発病程度は中西部で平年並、中央部で平年よりもやや低く、西部で低かった。
- (2) 1月の調査では、媒介虫であるミナミキイロアザミウマの発生は県下全域で確認されている。例年、2月以降ミナミキイロアザミウマの密度が上昇する傾向が見られることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を、低密度時に徹底して実施する。
- (2) 罹病株は早期に除去し、埋却などにより処分する。

5) 退緑黄化病

予 想 発生量：多(中央部)、少(中西部、西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県中央部で発生が見られ、発生面積は平年よりも多く、発病程度は平年より高かった。
- (2) 1月の調査では、媒介虫であるタバココナジラミの発生が県下全域で確認されて

いることから、2月以降も既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を、低密度時に徹底して実施する。
- (2) 罹病株は早期に除去し、埋却などにより処分する。

6) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多(中西部)、平年並(西部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりやや多く、西部でやや少なく、中央部で少なかった。発生程度は、いずれの地域も平年並以下であった。
- (2) 例年、2月以降に本虫の密度が上昇する傾向が見られることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 青色粘着トラップの設置等により、早期発見・早期防除に努める。既発ほ場では特に防除を徹底する。
- (2) 本虫は、多くの薬剤に対し抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

7) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(西部)、やや多(中央部、中西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、県西部で発生面積は平年よりも多く、中央部、中西部で平年並であった。発生程度は、県西部で平年よりも高く、中西部で平年並、中央部で低かった。
- (2) 気温の上昇にともない本虫の活動も徐々に活発になることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 黄色粘着トラップの設置等により、早期発見・早期防除に努める。
- (2) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。

2 促成ナスの病害虫

1) 灰色かび病

予 想 発生量：多(東部)、少(中央部、西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県東部、中央部で発生が見られ、発生面積は東部では平年並より多く、中央部では少なかった。発病程度は東部では平年よりも高く、中央部では低かった。
- (2) 本病の発病適温は20℃と比較的低温であり、2月の気温は低めと予想されていることから、既発ほ場を中心に現在の発病状況が継続すると考えられる。

2) うどんこ病

予 想 発生量：平年並(中央部)、少(東部、西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県東部、中央部で発生が見られ、発生面積は中央部では平年並、東部では少なかった。発病程度は東部、中央部ともに平年よりも低かった。
- (2) 2月の気温は平年より低く、降水量は平年並か少ないと予想されているため、現在の発病状況が継続すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多(西部)、やや少(東部、中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年より多く、東部、中央部でやや少なかった。発生程度は西部で平年より高く、東部で平年並、中央部では低かった。
- (2) 2月の降水量は平年並か少ないと予想されているため、病勢進展は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) すすかび病

予 想 発生量：やや少(県下全域)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られたものの、いずれの地域も平年と比べ発生面積は少なく、発生程度も低かった。
- (2) 例年2月以降に発生が増加することから、現在よりもやや増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本病は25℃前後の多湿条件で発生が増加するので、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。
- (3) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや少(中央部)、少(東部、西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県東部、中央部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年並、東部で少なかった。発生程度は中央部で高く、東部で平年並であった。
- (2) 気温の上昇にともない本虫の活動も徐々に活発になると考えられるが、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

(2)天敵類の密度が低いほ場では、追加放飼を検討する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多(中央部、西部)、少(東部)

根 拠

(1)1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部、西部で平年よりも多く、東部で少なかった。発生程度は西部で平年よりも高く、中央部でやや高く、東部でやや低かった。

(2)気温の上昇にともない本虫の活動も徐々に活発になると考えられるが、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

(1)本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。

(2)天敵類の密度が低いほ場では、追加放飼を検討する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：平年並(中央部、中西部)、やや少(東部)

根 拠

(1)1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部、中西部で平年並、東部で平年よりやや少なかった。発病程度は平年と比べ中西部で高く、中央部でやや高く、東部で低かった。

(2)2月の気温は平年より低く、降水量は平年並か少ないと予想されているため、現在の発病状況が継続すると考えられる。

対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：多(中西部)、やや多(東部)、平年並(中央部)

根 拠

(1)1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりも多く、東部でやや多く、中央部で平年並であった。発生程度は、東部、中西部で平年よりも高く、中央部で平年並であった。

(2)2月の降水量は平年並か少ないと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。

(2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多(東部)、平年並(中央部、中西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域県で発生が見られ、発生面積は、県東部で平年より多く、中央部、中西部では平年並であった。発病程度は、県東部で平年よりも高く、中西部でやや高く、中央部で低かった。
- (2) 2月の降水量は平年並か少ないと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多(中央部)、平年並(中西部)、少(東部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりも多く、中西部で平年並、東部で少なかった。発生程度は中央部で平年より高く、中西部でやや低く、東部で低かった。
- (2) 気温の上昇にともない本虫の活動も徐々に活発になると考えられるが、ほとんどのほ場でカブリダニ類等の天敵類が定着しているため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。
- (2) 天敵類の密度が低いほ場では、追加放飼を検討する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中西部)、平年並(東部、中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年よりも多く、東部、中央部で平年並であった。発生程度はいずれの地域も平年より低かった。
- (2) 気温の上昇にともない本虫の活動も徐々に活発になると考えられるが、ほとんどのほ場で天敵類が定着しているため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。
- (2) 天敵類の密度が低いほ場では、追加放飼を検討する。

4 促成トマトの病害虫

1) すすかび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発病程度も平年より高かった。
- (2) 2月の降水量は平年並か少ないと予想されているが、既発ほ場を中心に発生は継続すると考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。

(2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) うどんこ病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

(1)1月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発病程度は平年並であった。

(2)2月の気温は平年より低く、降水量は平年並か少ないと予想されているため、現在の発病状況が継続すると考えられる。

対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) 黄化葉巻病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

(1)1月の調査では、新たな発生も確認され、平年と比べ発生面積は多く、発病程度はやや高かった。

(2)例年、日照時間の増加とともに本病の媒介虫であるタバココナジラミの密度が高まる時期であることから、既発ほ場やタバココナジラミの発生ほ場では発生が増加すると考えられる。

対 策

(1)媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋却などにより処分する。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

(1)1月の調査では、発生面積は平年並、発生程度は平年よりも低かった。

(2)気温の上昇にともない本虫の活動も徐々に活発になると考えられることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

(1)本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。

(2)黄色粘着トラップの設置等により、本虫の早期発見、早期防除に努める。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ (こうち農業ネット) <https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報

②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報

③病害虫発生予察技術資料

④新しく問題となっている病害虫 etc.